

## H27年6月14日 金沢エルデの会セミナー「中学生の不登校」

当日の進行のあらましとアンケートのまとめ

(於) 教育プラザ富樫

参加者数 31 名 (うち学生 4 名) 回収数 21 (うち 2 枚記入なし: 保護者、学生)

○前半 会員の話

- ① 不登校中の子どもの保護者の話
- ② 中学時に不登校をしていた子どもの保護者の話
- ③ 不登校をしなかった子どもの保護者の話

15 分の休憩

○後半 支援者側の話

- ① 元エルデの会の学生支援者で現在小学校の先生の話
- ② 相談機関のスタッフの先生の話
- ③ エルデの会のサブディレクターの話

質疑応答

### アンケートのまとめ

・少しでも興味のあることに一緒に顔を出していろいろ試してみたいと思いました。学校は、その先に見えてくるものかもしれません。(中学生の保護者)

・小学 5 年男子の母です。普通の子でも難しいと言われる中学生生活を見守る心構えとして、とても参考になりました。学びとして本人の好きなことを支援し、好きなところから広がりを作ってあげる、親以外の公的、または私的な場を探してあげたいと思いました。高校でも不登校を支援する対応に取り組まれていることを知りおどろきました。いろいろ貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。

・グレーゾーンの子どもの話も聞いてみたいです。不登校でもいろいろなタイプのいることがわかりましたが、LD の場合だと (これのみ) 小 5 ぐらいがさかいめなのかと感じました。(今日の方がそうだけなのか) 学校、教育者の方々の知識が不足していると思います。声を上げて行かないと良くはな于行かないと思うのですが、そういった活動はされているのでしょうか? (保護者)

(※定期的なそのような活動はありませんが、過去には、石川県発達障害者支援整備検討委員会にて、また、金沢市では特別支援教育の指針策定委員会において、委員として保護者の意見を述べる機会をいただきました。近年では、NPO 法人アスぺの会石川と一緒に年に 2 回ピアサポート事業を開催しており、そこであげられる保護者の方の声をまとめて、H25 年 11 月に「金沢市の特別支援教育に対するお願い」を金沢市教育委員会に提出をしました。また、毎年、年度末に開催されます石川県の発達障害者支援連絡協議会にて、保護者の立場としての要望も提示しております。)

・昭和 40~50 年頃、(私の子ども時代) にも不登校の子どもはいましたが、地域でそれを

見守っている状態が見られました。「家で何もせんと居るだけなら田んぼ仕事手伝えや！」と声を掛けてくれるおっちゃんや、銭湯の手伝いをすすめるじいちゃんなど、、、。結果的に中卒で農業に従事したり、銭湯に勤めたりした友達もいました。地域でその子を育てる（自然と気にかけて手をさしのべる）時代であったように思えます。おせっかいが過ぎる事もありましたけど、、、。学校の先生も今の様に規制もなく、とことんつき合ってくれていました。不登校の子を家に招いて連泊して付き合ってくれたり、休日に連れ出してくれたり、、、など。いろいろと制度が確立した今の時代ですが、逆に“規制”が厳しくなって自由に動けなくなってしまった様ですね。今ではこのようなコミュニケーションも崩れてしまい、子どもも大人も住みにくい時代になっている感があります。こんな時代だからこそ、地域が今一度つながりを持って支え合う中で子どもを育てていければと思います。（療育機関関係者）

・生の声が聞けた事がとても参考になりました。また参加させていただきたいです。（放課後等デイサービス KEYS）

・先輩ママのお話で、息子さんから伺ったという話がよかったです。学校という体質に合わない子はいる。勉強はとりもどすことができる。何も語ってくれない息子ですが、彼の頭の中でも、いろんなことを考えているのだろうな、と少したのもしく思いました。（小学生の保護者）

・不登校の子をもつ保護者の相談をしています。いろいろな立場の保護者の方のお話を聞いて良かったです。ありがとうございました。（療育機関関係者）

・体験談が聞いてよかったです。参加することができたことがよかったですと思います。色々なケースがあり、個性も一人ひとり違うけど、皆、生きづらさを持ちながらも、合ったところでがんばっていると思いました。（保護者）

・不登校になったクラスメートのことなど、自分の体験を思い浮かべて聞いていました。とてもためになる話が聞いてよかったです。（大学生）

・文化としてある“登校するもの”をはじめ、学校の常識を変えるのは本当にむずかしいと思います。自転車の大会の話で、お母さんは内申に書いてくれたと言われましたが、担任によっては、どこまで保護者の責任でお願いをしてよいかわからず、、、、ということもあり、互いにもっと話ができる事が大事なんだろうと思いました。ありがとうございました。

・とても充実した時間を過ごさせていただきました。勉強になりました。ありがとうございました。（特別支援学校）

・セミナーに初めて参加して、子どもが不登校の時、親はこういう気持ちになって、こんな風に子どもに対して思うんだと少し分かった気がします。不登校の子どもがわかるなという部分もあったし、マンガとか何かのきっかけで、好きなことを見つけ、いい方向に向かって行くんだなと思いました。（大学生）

・私も学校が嫌いで、学校と相談して早退という形をとっていた。母親はその時平然としていたが、今思えば色々大変だっただろうなと思った。（大学生）

・特別支援教育の求めることは自立と社会参加ということは分かっているし、長い人生の中の今という事も分かっている。しかし、何か困ったこと、どう考えればいいのか分からないことが起きると“今”の姿にこだわってしまい、その時に考える自立する姿、社会参加する姿は“普通”、“一般”の姿なのかなあ〜と最近つくづく感じています。今回のことは通常の学校のことだけど、特別支援学校にも通じる話だなと思いました。いろいろなパターンの自立、社会参加する姿を具体的に知ること、正直安心を感じていたり、こう長いスパンの中での本人たちの姿や思いの変化をもっともっと知りたいなあと思っています。(特別支援学校)

・どうもありがとうございました。不登校のお子さんについて、保護者の方が「何とか学校に」と思っている時には、あんまりよい方向にすすめず、「まあ、いいか」「仕方がない」「学校以外でも学べる」と受け入れた、というか、腹をくくったというか、それから前に進めるなど感じていました。最後に山口さんのお話の中で「親はとことんまでやってあきらめざるをえない」という言葉から「何とか学校に、、、」と思っている期間も大切な期間なんだなと思いました。得るもの学んだことがたくさんありました。ありがとうございました。(特別支援学校)

・エルデの会の方たちは事例検討会を積み重ねて、ご自分のお子さんのことをきちんと把握していらっしゃっていると思います。今後の成長もまた聞かせて下さい。(保護者)

・不登校になったお子さんの話だけでなく、不登校ができないけど困っているお子さんのお話も聞いてよかったです。(小学生の保護者)

・初めて参加しました。大人でも、自分が認められない、大切にされない所には行きたくないですね。安心できない、居心地のよくない所には誰も行きたくないです。不登校の子は正直すぎる、自分の心のままに、どうする事もできない思いを抱え込んでいるんだと思います。学校に限定せず、本人が安心していられる居場所作りが大切だと思います。その中で、自分のしたいことを見つけ、自分自身がかわって行けるのだと思います。本日はご家族のお話をお聞きして、そのご苦労を知ることができました。これから何ができるか考えていきたいです。

・経験されたことをリアルにお話しいただき感謝します。たてに見る育ちを学ぶには数年かかると思っていますが、今日は様々な方からとってもらって貴重なお話を聞かせて頂けて、深い学びの時間となりました。様々な形の学びが認められる時代になっていくことで、子どもたちの持っている力がたくさん発揮できるようになると嬉しいと思います。子どもたちと出会う、第3者の立場として微力ながらできることを考えていきたいです。本当にありがとうございました。